

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 城野 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。6

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、無解答は全くない。</li> <li>書く力を問う問題に課題がある。</li> </ul>
	よくてきた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使う問題は正答率が高かった。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える問題の正答率が低かった。</li> </ul>
国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、無解答は全くない。</li> <li>「話すこと・聞くこと」の問題に課題がある。</li> <li>記述式の正答率の低さが、他の問題形式より目立つ。書く活動を充実させる必要がある。</li> </ul>
	よくてきた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える問題の正答率が高かった。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>話しての意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめ記述する問題の正答率が低かった。</li> </ul>
算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、無解答は全くない。</li> <li>計算領域は前年度に比べ下回ったが、図形領域に関しては改善傾向がみられる。</li> </ul>
	よくてきた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>円周率の意味についての問題が全国平均を上回っている。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上表す問題の正答率が低かった。</li> </ul>
算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、記述式の問題以外はほぼ無解答はない。</li> <li>図形領域の記述式の問題に課題がある。</li> </ul>
	よくてきた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断する問題が全国平均を上回っている。</li> <li>折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断する問題が全国平均を上回っている。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現する問題の正答率が低かった。</li> </ul>
理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、無解答は全くない。</li> <li>主として「知識」に関する問題に課題がある。</li> </ul>
	よくてきた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する問題が全国平均を上回っている。</li> </ul>
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験結果から電流の流れについて、より妥当な考えに改善する問題の正答率が低かった。</li> </ul>

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」という問いに対し、肯定的な回答をした割合は全国平均を上回った。これからも、子どもたちが「分かる・できる」と実感できるような授業改善を継続していく必要がある。</li> <li>「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合が全国と比べてかなり高い。自尊感情が高くなってきていることから、児童が将来を展望できるようになってきていることがわかる。</li> <li>「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対し、肯定的な回答をしている児童が全国平均を大きく上回った。教師と児童の好ましい関係や、わからないことを気軽に聞くことができる学級の雰囲気がつくられているといえる。</li> <li>「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか」という質問に対し、肯定的な回答をした児童の割合が全国と比べてかなり高い。日々の授業における観察や実験を、児童が主体的・対話的に行っている成果であるといえる。</li> <li>「朝食を毎日食べていますか」「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」などの、生活面に関する質問に対して、肯定的な回答をした割合が全国平均を下回った。児童の生活実態を把握し改善していく必要がある。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 児童が「分かる・できる」を実感できるような、個に応じた支援を取り入れた授業改善。(ワーキングメモリアセスメント)
- 視点を明確にした「振り返り」の時間の設定による、「書く」指導。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 本校で作成した「学習・生活の手引き」を配布し、生活習慣や学習習慣について保護者に周知する。
- 月始めの1週間を「家庭生活・学習週間」と位置付け、各家庭に家庭生活・学習がんばりカードを配布し、基本的な生活習慣の様子を保護者とともに確認して記述できるようにする。また、配布物の裏に「学習・生活の手引き」の抜粋を載せ、保護者に